

積善

題字 第241世天台座主 玄深師(恵亮院藏)

餘慶寺だより

編集・発行 上寺山餘慶寺

〒701-4232 岡山県瀬戸内市邑久町北島 1187

納経所 TEL 086-942-0186 FAX 086-942-0187

恵亮院 TEL/FAX 086-942-3788

本乗院 TEL 086-942-2791 FAX 086-239-5823

吉祥院 TEL/FAX 086-942-3789

定光院 TEL 086-942-2356 FAX 086-944-1490

明王院 TEL 086-943-1030 FAX 086-943-1069

圓乗院 TEL 086-942-2356

ホームページアドレス <http://www.yokeiji.com/>

餘慶寺寺宝展

十月十四日(月・祝) 九時三十分～十六時

会場 本堂・薬師堂・餘慶寺会館

今年で第十一回となります。餘慶寺寺宝展が開催されます。

今年「上寺のお薬師さん」がテーマです。薬師如来さまは、地元では古くから「目の薬師さま」として信仰されてきました。そこで、より一層お薬師さんへの理解を深めていただくためにも、特別拝観とともに、就実大学教授の土井通弘先生による講演会『薬師信仰と餘慶寺の薬師像』も開催いたします。(四面参照)

また、薬師堂の前には「遊慶の庭」が広がっています。この庭は、重森三玲師の弟子、岩本俊男さんが絶妙なる石組みを配して作庭されたもので、参詣者の心身をリフレッシュさせてくれます。

寺宝展当日は、隣接する豊原北島神社で恒例の秋の大祭が執り行われます。きつとにぎやかな秋の一日となることでしょう。



餘慶寺 秋の行事

寺宝展

十月十四日(月・祝)

九時三十分～十六時

本堂・薬師堂

講演会 十三時～十四時三十分

餘慶寺会館

薬師堂特別拝観会場のため、護摩供養はおこないません。護摩のご祈禱をご希望の方は、毎月八日の縁日にお参り下さい。

奉納書道展

十月十四日(月・祝)

二十日(日)

九時～十五時

地蔵堂

例年の通り秋の寺宝展にあわせて開催いたします。奉納いただいた作品が地蔵堂の壁いっぱいに表示されます。ぜひご覧ください。

天台会

十月二十三日(土)

十六時

二十四日(日)

八時

本堂

天台宗を開いた天台大師のご命日です。中国仏教を総合し、天台教学を樹立した方で、またの名を「智者大師」「中国の小釈迦」ともいわれます。

餘慶寺本堂では内陣の右奥にお祀りしてあります。山家会と同じように前後にも法要があり、「天台大師和讃」を読みます。

各院からのお知らせ

恵亮院より

毘沙門天王縁日護摩祈禱

(於 恵亮院毘沙門堂)

毎月三日 午前十時～

本乗院より

写経会(於 本乗院客殿)

毎月第三日曜日

十一月～三月 午前七時～

四月～十月 午前六時～

定光院より

大聖歡喜天縁日(於 定光院)

毎月十五日 早朝より

※病氣平癒等のご祈禱は随時

受付しています。

餘慶寺より

薬師縁日(於 薬師堂)

毎月八日 午前十時～

(八月はありません。)

護摩供養をしています。

ご祈禱のお申し込みは納経

所へお願いします。

観音縁日(於 本堂)

毎月十八日 午前八時～

みんなで観音経をあげます。

お経本は本堂にありますので、お気軽におまいりくだ

さい。

ひとくち法話

蟬の一生

今年の夏も連日猛暑で、熱中症予防が呼びかけられる毎日でした。毎朝気温が上がってくるというの間に蝉が鳴き始め、あつという間に大合唱になっていきます。「あー、また今日も晴れて暑くなるんだなあ」と朝からうんざりしてしまいます。

蟬といえば、上寺でも昔は茶色い羽根のアブラゼミや小さなニイニイゼミが多く見られましたが、地球温暖化の影響か最近ではクマゼミが多くなってきた、風流に「蟬の声」とも言えなくなってきました。

蟬は幼虫の姿で七年間を土の中で過ごした後に、地上へ出てきて成虫になって七日間でその一生を終えるといわれています。わずか七日間の命と思うと、蟬の一生とは何だろうと思ってしまいます。

しかしこの夏、ある檀家さんとの会話の中で「蟬の幼虫も土の中の七年間も幸せだったかもしれないよねえ」という言葉を聞いて、蟬をかわいそうとか哀れだとか勝手に決めつけていた自分に気がきました。蟬は別に自分が不幸だとかそんなことは思っているわけもなく、自然という大きなサイクルの中で、言わば七年と七日という「天寿」を全うしているわけです。

私も日本人の平均寿命を全うするとすれば、人生の折り返し地点を過ぎました。蟬のように一生懸命に生きられるだろうか、毎日一つでも二つでも自分が出来る事をしているだろうか、考えさせられる夏となりました。



体験道場

八月二十二日（木）～二十三日（金）にかけて、一泊二日の「夏休み子ども体験道場 in 餘慶寺」が行われました。これは中国観音霊場会青年部主催の行事で、中国地方の各お寺から青年僧侶を中心にスタッフが訪れ、子どもたちに座禅や作法の手ほどきをしました。また餘慶寺境内に広がる「遊慶の庭」を作庭された岩本俊男さんのチームによる「ミニ枯山水づくり」では、子どもたちの自由な発想により、様々な形の石組みがなされ、時として岩本さんを「お見事」とうならせる作品もありました。これらの体験を通じて、子どもたちには生きる力がはぐくまれ、創造力豊かに何事にも取り組んでほしいと願っています。



納経所でお手伝い下さる方を募集いたします。

日曜、祝日やお寺で特別な行事がある時に、納経所（餘慶寺会館）に来て下さる方を数名募集いたします。ご奉仕いただく時間帯は午前八時～午後五時で、仕事内容は、納経受付、参拝者の対応、電話受付、お守りなどの授与などです。お問合せは恵亮院（086-942-1378）まで。

上寺の森を育てる会

里山の珍味

食べられる木の実と有害動・植物

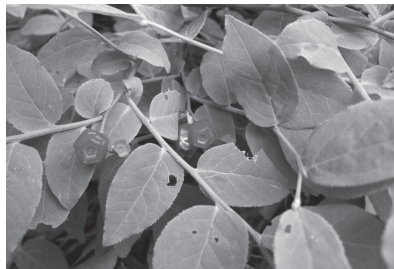
その① 食べられる木の実

上寺の里山でその気になつて探すと、結構食べられる実があります。初夏の頃、私が最も気に入っているのはウスノキ（写真）の実です。森の中で、ルビー色の実を見つけた時の感動と甘酸っぱい味は忘れられません。ナワシロイチゴ（写真）は、仁丹大のプチプチとしたこれまたルビー色の実が集まり甘酸っぱい味がします。同じ頃、ナワシログミは実のまわりに白銀色の粉を付けたピーナツ大の赤い実。また、大量に収穫することが出来るヤマモモ（山百百）、この果実酒のピンク色の鮮やかさは見事です。秋になると、ナンテンの実大ナスビ色で酸っぱいナツハゼ（ヤマナスビ）の実。祭りの頃、神社の森ではシイの実（スダジイ）が落ちています。物が少なかった子供の頃、ポケット一杯に拾って食べていました。炒ると殻がはじけて香ばしくなりさらにおいしかったものでした。

クリの実は今でも健在です。それにしても、上寺の山畑の大半を占めていたクワの実がほとんどなくなったのは寂しいです。口やシャツを紫色に染め母から叱られていた五、六十年前の子供の頃が懐かしく思い出されます。（続く）



ナワシロイチゴ



ウスノキ

カブトムシ・クワガタムシ

観察会

七月二十一日（日）の早朝より、豊学区と今城学区などの小学生・保護者が五十数名集まってカブトムシ・クワガタムシ観察会が行われました。約一時間ほど探し回り、その後、事前に確保飼育していた多くのカブトムシたちを、朽ち木や土と一緒に、好きなだけ虫かごに入れて持って帰ってもらいました。

この会は例年盛況で、今年も早朝から子どもたちの目は輝き、元気な声が入る寺の森に響き渡っていました。関係者・参加者の皆様、有難うございました。



看板紹介

わたしの名前は「しょうぐうさん」です。天台宗の一隅を照らす運動の公式キャラクターとして生まれました。ちなみに、宗教界の「ゆるキャラ」として注目されています。今回のわたしのお役目は餘慶寺さんの道案内です。県道沿いの登り口で、わたしがずっとお待ちしています。これから先も、よろしくね。

← 参道入口
(ここから約800m)

天台宗 上寺山
餘慶寺
よけいじ

中国観音霊場 第2番札所
百八観音霊場 第3番札所
山陽花の寺霊場 第16番札所

薬師縁日 毎月8日 10時～
観音縁日 毎月18日 8時～
納骨堂現地説明会
毎月第2日曜日 14時～

里山の保全活動でお手伝い
下さる方を募集いたします。

上寺の森を育てる会では、里山としての景観を保ち、火災などの事故防止に心掛けています。より美しい里山を作るために、このようなことに興味関心をお持ちの方はどうぞご応募下さい。お問合せは恵亮院（086-942-3788）まで。

十三仏について〜文殊菩薩〜

文殊菩薩 (みなのか
(三十七日))

三十七日の仏さまは文殊菩薩です。「三人寄れば文殊の知恵」ということわざがあります。一人の考えでは良い知恵は出なくても三人集まれば文殊菩薩のような良い考えが浮かぶという意味です。

このように文殊菩薩はお釈迦さまの弟子の中でも特に頭の良いお方です。

文殊菩薩のお姿ですが、獅子の台座の上に乗っておられる姿をよく見ます。獅子は百獣の王と呼ばれるように文殊菩薩の智慧の強さをあらわしています。



お釈迦さま
(二七日)を真
ん中にして、
両脇にお供と
して文殊菩薩
(三十七日)と普賢菩薩(四七日)
が並ぶのを釈迦三尊といいま
す。

ちゃんと順番になっています
ね、文殊菩薩はお釈迦さまのお
手伝いをして亡くなった方に仏
さまの智慧を身につけて下さ
るのです。



よけいじ寺子屋

会場 餘慶寺会館

餘慶寺では、さまざまな講座を通じて、少しでも皆様の人生のお役に立てればと願っております。

☆九月二十三日(月祝) 十四時

『彼岸・此岸』

講師 恵亮院名誉住職

横野祐彰師

☆九月二十八日(土) 十四時

『詩吟・漢詩の第二章』

講師 撰南流吉備吟詠会師範 高津利明先生

☆十月十四日(月祝) 十三時〜十四時三十分

『薬師信仰と餘慶寺の薬師像』

講師 就実大学教授

土井通弘先生

※寺宝展当日、全国の薬師像を映し、比較しながら説明します。

☆十月二十七日(日) 十四時

『お経に親しむ』

講師 定光院・円乗院住職

西野祐誠師

☆十一月二十四日(日) 十四時

『天台大師について』

講師 定光院・円乗院住職

西野祐誠師

※聴講無料です。自由にご参加下さい。

編集後記

「今年は特別暑い」という言葉をここ数年、毎年言っているように思います。厳しい残暑で熱中症等なりませんよう、体調管理には気をつけていきたいものです。

秋のお彼岸が過ぎると、餘慶寺寺宝展が開催されます。普段は公開していない薬師如来さまをはじめ、貴重な寺宝を拝観いただくことができます。気候も過ごしやすくなる時期に、どうぞ上寺へお詣りください。

